

提案13 河川流水の増量による楽しめる水辺環境の創造

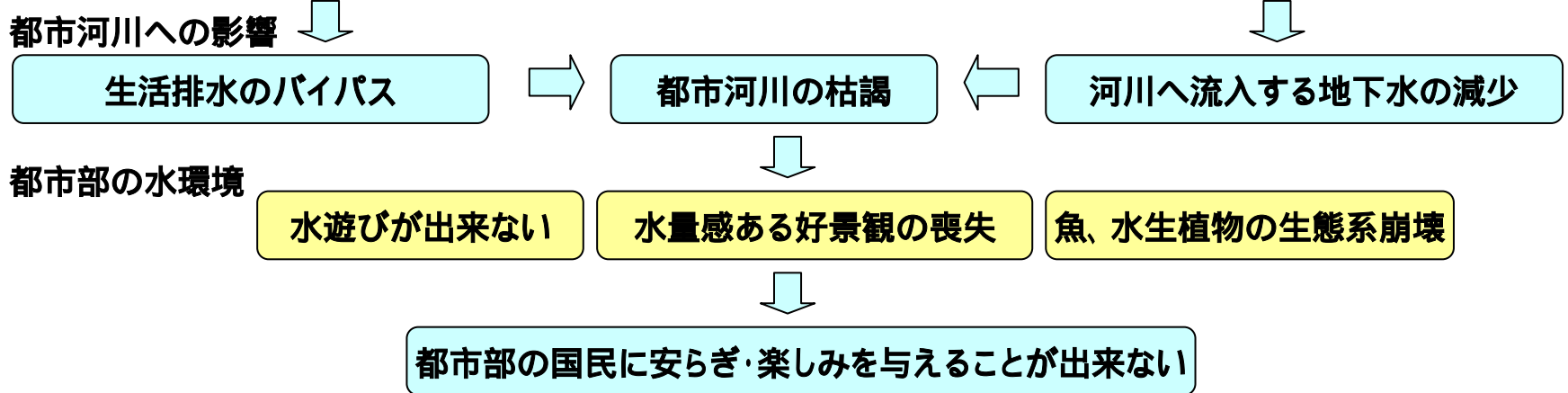
1. 提案の背景 ~ 河川水量が減少したことによる水環境の悪化

1) 現状の下水道・土地利用が与える水環境

現状

現在の下水道システム
スケールメリットを最大限活かした大きな処理区
処理場を当該処理区の放流河川の最下流に設置

土地利用の変化 ~ 保水機能の半減
都市部の流出係数: 0.4程度 0.7程度
地下浸透率: 0.6程度 0.3程度
人工水路の築造
河川へ流出する地下水を遮断



2) 国民の自然に対する意識は高い(内閣府「国土の将来像に関する世論調査(H13.6)」より)

自然とふれ合う機会を増やしたい
人口10万人以上の都市では 約80%

老後はガーデニングや野菜作りが出来る田舎
(自然と触れる環境)で暮らしたい 86%

自宅や勤務先周辺で自然を感じたい
平成8年 36% 平成13年 42%

今より生活便利・自然環境のどちらの良い方に住みたい
生活便利 約35% 自然環境 約45%

3. 提案の効果 ~ 人に楽しみを与える水辺環境が創造される

河川流水の増量により、流水の清潔の保持、動植物の保護、水量感溢れる良好な景観、舟運が確保された川で様々な遊びができるようになる。



分別処理水の
供給による
せせらぎ水路

流水の清潔の保持

- ・汚濁源を希釈することから、より良い水質となり、水遊びを楽しむ。

動植物の保護

- ・魚釣りを楽しむ、水生植物や泳ぐ魚は、良好な景観に寄与。

水量感溢れる良好な景観

- ・心安らく景観(水辺空間)を散歩や昼食の場として楽しむ。

舟運

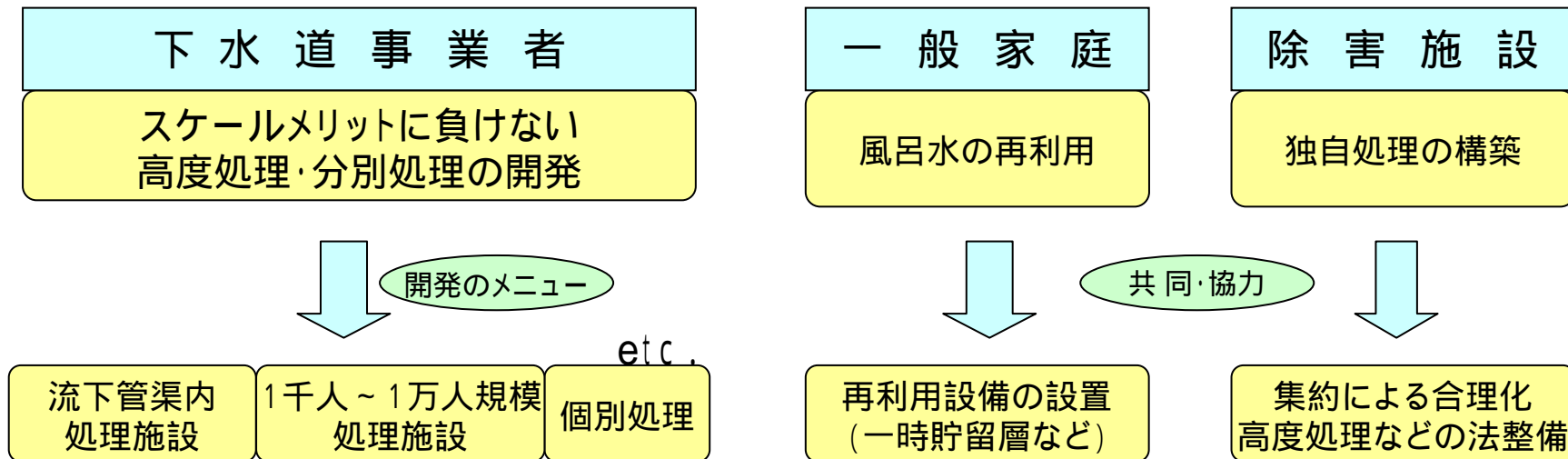
- ・カヌーや舟下りを楽しむ

街中にも水辺空間の創造

- ・分別処理水の供給により創られた水辺空間を楽しむ。

4. 実現のためのシナリオ ~ 新たな下水道システムの構築

新技術・新排水設備



課題: 専用管の増設、雨管利用の場合は雨天時対策

他部局との連携

- ・道路部局: ノンポイント対策 (路面から流出する塵への対策) に貢献。
- ・河川部局: 河川浄化施設や良好な景観を生み出す河川整備。

下水道の健全な経営

- ・下水処理量の減少により収入源が減少するため、現在の使用水量による料金体制の見直しなど、経営の一層の健全化が必要。